

離婚後の養育費 立て替え支援の継続へ 条例制定を検討

問 離婚後の養育費立て替え支援制度は、今後も継続的な支援として確立する必要がありますが、条例を制定すべきと考えるが、市の見解を問う。

答 本市では、2014年から離婚後の子ども養育支援を開始し、子どもの立場に立ち面会交流のコーディネート

継続的な取り組みが必要である。一過性の取り組みで終わらせることなく、恒常的な制度とするためにも条例制定は有効な手段と考える。今後、パブリックコメントを行い、3月議会に条例案を提出する考えだ。

1トや子どもの養育に関する参考書式の配布などを行ってきた。現在は、養育費の取り決めを調停調書などの公的な書類として作成する際の費用補助や養育費の最長3カ月の立て替えなど、養育費に係る支援を総合的に実施している。

子どもの自立までの養育費を確保するには、

子どもが同時に退職し、定年前の総務局長も退職した。MBSテレビで、市長が土地交渉担当職員に、お前ら不動産会社から金もろてんのか。人は、金と地位と恐怖でしか動かない。特に、職員は恐怖でと言ったと放送された。また、副市長2人の辞職理由を市長は、区切り。2人からそう聞いた。クレームも不満も

も入った駅直結の5階建て複合施設を20億円かけて建設する。二見も方向性は定まっている。財源は、国庫補助のほか基金を取り崩す考えだ。

副市長の暴言と市長の真意は



子どもの成長を応援する

本のまちのさらなる充実

西明石・大久保・二見に図書館新設へ

問 市内の図書館整備についてのは、

答 本のまちの実現を重点施策に掲げる本市は、あかし市民図書館と西部市民図書館の2館を有しているが、中核市平均の5館に足りず、増加傾向が続く本市の人口動態からも、増設の必要性は高い。まちづくり市民意識調査でも、西明石や大久保地域への図書館設置を求める意見が多く、3月

議会です3館を新設する道筋をつけたい。西明石は、サンライフ明石の中に地域交流拠点に合わせて西部図書館を超える蔵書数の図書館を国庫補助とJR西日本の協力により市の負担なしに整備する。大久保は、JR大久保駅南のロータリーを縮小し、図書館

市内の図書館を5館へ増設



市内の図書館を5館へ増設

市長のマスコミへの発言 反対派の嫌がらせなど 過激な言葉を多用

問 両副市長からは、区切りを付けたので辞めたいと言われた。トブルの覚えはない。女性副市長を作りたく、定数を3に増やしたいと相談していたので、その経緯も踏まえ辞める決断をしたのだろうと理解している。職員への暴言については、全く認識がない。

答 長年とは、市長に就任以降のことで、反対

政への信頼を大きく失墜させるものであるが、市長に問題意識はあるのか。また、市長の発信している情報は、印象操作を行っているとの疑念があるが、その認識を問う。

「明石市長 泉房穂」のツイッターに税情報を投稿した件は、違法ではなく、同法第22条の秘密にも該当しないと認識している。このツイッターは、公的な立場と政務的な立場を兼ねたもので、発信する際には、今まで以上に慎重に対応すべきと考えており、印象操作を行っている認識はない。

公平委員会委員の任期満了に伴い、井上一美氏(77歳・明石市)と坂下玲子氏(61歳・明石市)を引き続き選任することに同意しました。

ツイッターへの税情報投稿 印象操作の疑念も 市長による情報発信に問題

問 令和4年2月に泉市長が自身のツイッターに市内企業の法人市民税額を投稿したことは、地方税法第22条に規定する秘密に該当する疑いがある。守られるべき情報を本人の了解を得ずに公開した行為は、市民に恐怖を与え、市

公平委員会委員の任期満了に伴い、井上一美氏(77歳・明石市)と坂下玲子氏(61歳・明石市)を引き続き選任することに同意しました。

井上氏は財団法人兵庫県勤労福祉協会理事などを歴任され、平成2年から同委員に就任し、今回で9期目です。坂下氏は兵庫県立大学副学長などを務められており、令和3年から同委員に就任し、今回で2期目です。

なお、本市の公平委員会委員は3人で、任期は4年です。

公平委員会委員の任期満了に伴い、井上一美氏(77歳・明石市)と坂下玲子氏(61歳・明石市)を引き続き選任することに同意しました。

請願

採択された請願
○明石市が管理している漁港を含めた周辺環境改善を求める請願
○教育予算増額を求める請願

議員ふもやま話

ご縁があって、デッサンのサークルに入り絵を描くようになりました。月に数時間程度ではありますが、好きなことに没頭できる時間を楽しんでいます。

デッサン力というのと、絵を上手に描く「技術力」と思われるかもしれませんが、実は物を「見る力」のことだと思っています。モチーフを観察する目を鍛えることで、物事の本質を見る目や、自分なりの物の見方・感じ方を鍛えているように感じています。大勢で同じモチーフを描いてもどれ一つとして同じ作品にならず、作者それぞれの見方・感じ方が反映されていて、毎回その違いが面白いなと思います。選ぶ画材もその時それぞれ。私にとっては、自分自身と他者との違いを楽しく認め合う場にもなっています。

社会も多様化が進んでいますが、お互いを認め合う空気は醸成されていないでしょうか。認め合う前に分断が進んでいないでしょうか。うわさやうわさだけで判断せず本質を見極められているか常に問いかけることは、デッサンも日常も政治も根本は同じだと思ふ今日このごろです。

新年のあいさつを動画で配信

榎本議長・辰巳副議長からの「新年のあいさつ」をYouTubeで公開しました。ぜひご覧ください。今後も議会からのお知らせを分かりやすく情報発信していきます。

